

奈良県国語教育研究会報

第106号

発行所 奈良県教育研究会
 発行人 谷奥 彰
 事務局 大和高田市立浮孔小学校
 大和高田市三倉堂2丁目5-43
 ☎ 0745-22-0451
 FAX 0745-22-0452



新学習指導要領の 実施に向けた授業改善

奈良県教育委員会事務局
 学校教育課 指導主事 川西 聡 弘

平成二十九年三月三十一日に新学習指導要領が告示され、小学校で平成三十三年度から、中学校で平成三十三年度から全面実施されます。今回の改訂において何が変わるのか、また、変わらないものは何かをまず確認しておきます。

改訂による変更点として挙げられるのは、全ての教科等を、育成を目指す資質・能力の三つの柱で整理したという点です。三つの柱とは、「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の三点です。国語科ではこれまで、「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の三領域及び「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」で構成され、三領域それぞれに目標が設定されてきました。それが、今回の改訂では、教科の目標と内容について、三つの柱に沿って整理されています。国語科として大きな変化だと言えますが、全ての教科等が同じ三つの柱で整理されたことには大きな意味があります。例えば、児童生徒が教科横断的な学習をする

場合に、三つの柱という共通の視点で児童生徒の資質や能力を捉え、単元目標や評価規程を設定することができるということです。

次に、現行学習指導要領とあまり変化が見られないものを挙げますと、これは国語科の学習内容そのものです。実は、今回の改訂で新しく設定された指導事項はごくわずかです。これは、文部科学省のウェブページに掲載されている、学習指導要領比較対照表でも確認することができます。

これらのことから、国語科にとって、今回の改訂は、学習内容に大きな変化はないものの、三つの柱で整理された全体的な構成にポイントがあると言えます。

では、この改訂のポイントを踏まえて、どのように国語科の授業改善を進めていくべきでしょうか。新学習指導要領の総則には、育成を目指す資質・能力の三つの柱が偏りなく実現されるよう、児童生徒の主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を行うことと示されてい

ます。このような授業改善を行うには、先生方が御自身の授業を「主体的・対話的で深い学び」の視点で分析することが、まず必要であると考えます。例えば、「あの単元では、児童生徒の『対話的な学び』は実現できていたのだろうか。」などと考察することです。このような分析があつてこそ、今後の単元構想の際に、「主体的な学び」、「対話的な学び」、「深い学び」の三つの視点を踏まえた実践が可能になるのだと思います。

三つの視点の中でも、特に「深い学び」は、「考えの深まりは他の人からは見えにくい」、「どこまで深まればよしとするのか」など、具体的な子ども姿としてイメージしにくいかもしれません。単元の中で、児童生徒の考えの深まりをどのように可視化すればよいか、評価規程をどのように設定すればよいかなどを、授

業者がより具体的に考えることが求められており、それが「深い学び」の実現につながるかと考えています。

最後に、授業改善を進める上で欠かせないことを挙げておきます。それは、対象となる児童生徒について、その実態を先生方が正しく把握することです。例えば、県国研で作成されている学力診断や、全国及び奈良県学力・学習状況調査等の調査結果を参考にすることなどが重要です。これらの結果から分かる、児童生徒の弱点や強みを踏まえて、単元を構想する必要があります。

以上のように、児童生徒の実態を正しくつかんだ上で、児童生徒の資質・能力の育成を目指して単元目標を設定し、主体的・対話的で深い学びの実現を心がけることが、先生方に今後ますます求められています。

秋季研究大会講師

富山大学人間発達科学部 教授

米田 猛 先生の御紹介



昭和五十一年から五十九年まで奈良県北葛城郡富麻町立白鳳中学校に勤められた後、平成五年まで奈良教育大学教育学部附属中学校に勤められました。その後、香芝市立香芝中学校、大和高田市立高田中学校を経て、平成十年から県教育委員会事務局教職員課管理主事、平成十二年には同学校教育課指導主事、平成十五年からは、富山大学教育学部教授となられました。そして、平成十七年から現在まで、富山大学人間発達科学部教授を務められています。なお、この間、同学部の副学部長、学部長補佐、附属中学校長等を歴任されています。

- ・『説明力』を高める国語の授業（明治図書2006）
- ・『作文活動に活かす語彙指導法』(全国国語教育学会「国語科教育」第42集1995)
- ・『説明文』の文章表現能力分析（日本国語教育学会「月刊国語教育研究」297 1997）
- ・『スピーチ』（音声言語指導大事典）1999 明治図書
- ・『情報活用能力と意思運用能力を評価する』（日本国語教育学会「月刊国語教育研究」358 2002）
- ・『伝統的な言語文化』の教材研究のポイント（国語教育実践理論研究会「教材再研究 循環し発展する教材研究」2011 東洋館出版）
- ・『和語・漢語・外来語』（国語教育総合事典）2011 朝倉書店

ほか多数

―秋季研究大会要項―

期日 平成二十九年十一月二十四日(金)
会場 生駒市立生駒東小学校
生駒市東生駒四丁目三九八一―一〇
電話 〇七四三―七四一三五七二

日程

- ◇学習公開① 九時三十分～十時二十分
- ◇学習公開② 十時三十分～十一時二十分

学年	指導者	単元 「学習材」
一年	山本 和美	お話のさくしゃになろう「お話のさくしゃになろう」
三年	西村 由樹 西前真粧美	ぼうけん物語を書こう「たから島のぼうけん」
六年	高塚 力蔵	ようこそ 東小ミュージアムへ「この絵、私はこう見る」 力を伝えよう「この絵、私はこう見る」
一年	清原 美優 西前真粧美	「しらせたいな、おいものこと しらせたいな、見せたいな」
四年	田中 真理	リーフレットを作ろう 『クラブ活動リーフレット』を作ろう
五年	樋口佳代子	なるほど 納得！ 意見文マスターになろう！ 「グラフや表を用いて書こう」
特別支 援学級	大塚 真弓	がんばっていることをつたえよう

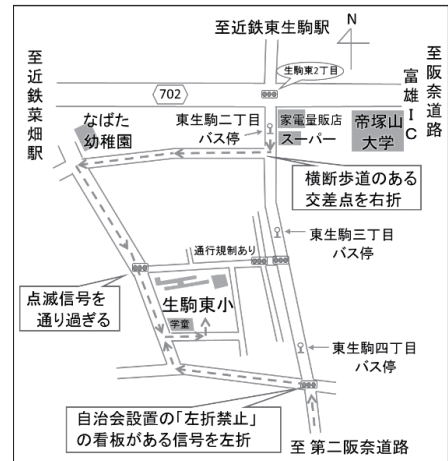
◇開会行事

- 十一時三十分～十二時十五分 実践報告及び研究協議(分科会)
- 十三時～十四時三十分 記念講演

「奈良県の国語科表現指導実践史にお

◇閉会行事

十六時十分～十六時三十分



研究主題について

付きたい力を明確にして書く力を高める授業の改善を図る

事務局 北村 拓也

日に日に秋が深まる頃、生駒市立生駒東小学校を会場として本年度の秋季研究大会を開催することになりました。開催に向けて格別の御尽力をいただいております生駒東小学校の先生方と、当日、ご協力をいただく生駒市小学校教育振興会国語部の先生方に、深く感謝いたします。

さて、本会では、「付きたい力を育む『書くこと』の学習活動の創造」を研究主題とし、試行錯誤を繰り返しながら研究を深めてきました。

小学校では平成三十二年度から、中学校では平成三十三年度から全面实施となる次期学習指導要領について、平成二十九年三月三十一日に文部科学省より告示があり、改正の概要が述べられました。その中で「何ができるようにするか」を明確化するとともに、これまでの教育実践の蓄積を引き継ぎ、児童の実態等に応じて、指導の工夫改善を図り、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改

善を図る必要があると述べています。また、「平成二十八年全国学力学習状況調査の結果」(文部科学省)の中で、小学校及び中学校において、自分の考えを書くことについて課題があることが報告されました。

そこで、本研究会では、これまでの実践を踏まえ、課題解決の過程としての言語活動の更なる充実を目指すとともに、今、身に付けさせたい「書くこと」の能力を高める授業研究を行いました。

まず、小学校の低・中・高学年と中学校の各部会に分かれ、「書くこと」について、児童・生徒の実態を基に、高めるべき書く能力を明確化しました。そして、学びの過程として必然性のある言語活動を吟味し、児童・生徒が主体的に、学習の見通しをもって取り組むことができるように単元を構成し、実践に取り組みました。

今回、その成果を発表させていただくことで、先生方の国語科学習の改善や国語教室の経営に少しでもお役に立てば、主催者としてこれ以上の喜びはございません。しかし、改善すべき問題も多く、御参会の先生方からは是非とも御意見・御批正を賜りたく存じます。忌憚らない御意見を賜り、活発な研究討議が行われることを願っております。

《低学年部会》

主体的 協働的に学ぶ
「書くこと」の指導の工夫

水田 真充

低学年部会では、目の前の児童たちにどんな能力を付けたいのか、何のために書くのかといった課題と目的意識を出し合った。そして、児童たちに付けたい力を部会で確認し合い、その力を付けるために考えられる言語活動を検討した。本年度は、どちらも一年生の学習材を用いて研究を進めていった。

一つ目は、「しらせたいな見せたいな」を学習材にし、言語活動として『「はっけん! たわらぐちいきものぶっく」をつくって発見したことを伝える」という活動を位置付けた。一つ目は、「おもい出して書くこう」を学習材にし、言語活動として「経験したことを報告する文章を書く」という活動を位置付けた。

前者では、生き物の観察を通して、発見したことを伝えるために細かい部分まで観察したり、着目する視点を与えながら幼稚園の友達に伝える、という相手意識を明確にしたりして書く活動の授業実践を報告する。また、後者では、五感を使って様々な活動を児童が経験し、そのことを作文に書いて、クラスの友達に報告するという実践を報告する。

《中学年部会》

「書く能力」を育成
するための学習の展開

杉村 幸恵

中学年部会では、児童の実態から「読

み手に伝わるように分かりやすく書く力」を付ける必要性を感じた。そこで、その力を付けるために最適な言語活動を吟味し、研究を進めた。

三年生では「たから島のぼうけん」ほけんだよりを読みくらべよう、四年生では、「ある人物になったつもりで」を学習材に用い、物語と新聞、ショートストリーを書く活動を位置付けた。取組を進めるにあたっては、目的と学習過程を明示し、見通しをもった学びを展開するようにした。同時に、場面の設定や話の筋を考えることで自分の考えを明確にして書くことができるのではないかと、表現在必要な語彙を増やすことで理由を挙げて詳しく書くことができるのではないかと仮説を立て、構成、記述の仕方に焦点をあてて方策を探った。また、ワークシート作成や学習形態の工夫など、児童たちが主体的な学びに向かうためのしかけ作りも検討した。

実生活に生きてはたらし、各教科等の学習の基本ともなる「書く能力」を育成するための実践を報告する。

《高学年部会》

付けたい力を
明確にして書く学習

石田 通大

高学年部会では研究主題「付けたい力を育む『書くこと』の学習活動の創造」の実現に向けて取り組むに当たり、児童の書く力の実態交流を行った。各校において、書く力を伸ばす取組を行っているものの課題は多く、構成を考えて書く力や図表やグラフを引用して書く力の習得

をめざしたいと研究を進めた。

六年生は「鳥獣戯画を読む」を、五年生は「グラフや表を生かして書くこう」「資料を生かして考えたことを書くこう」を学習材に、目的や意図に応じて文章全体の構成の効果を考え書く力を身に付ける学習指導を展開する。

書く力を育むために三つの仮説を立てた。一つ目は導入の時点で相手・目的意識を児童がもてるようにすることで、主体的な学びが実現できることである。二つ目はモデル文の活用によって書きたい意欲が高まるということであり、三つ目は書いたことを交流することによってより深い学びになるということである。

これらの仮説の検証とともに、児童の学習を数値的な振り返りからも報告する。

《中学校部会》

「書く力」を高めるための
具体的視点を
身に付ける授業

隅岡 歩

中学校部会では、文章作成過程のうち、構成及び叙述段階で求められる能力・態度の育成を中心とする実践的研究を行った。

構成段階の指導は、「学校に教科書や副読本を置いて帰ること」の是非をめぐる意見作成の自主編成単元を試みた。説得力に富む意見文には確かな根拠が不可欠だが、それを生み出させるため付箋紙やワークシートを効果的に活用し、生徒相互の対話を仕組んでいる。

叙述段階の指導は、「在籍校の魅力を

校区小学校の高学年児童に伝える紹介文」の自主編成単元である。叙述段階の指導を効果的に行うため、取材方法にも工夫を凝らし、さらに生徒同士の豊かで多様な交流も組織している。

両実践に共通して、生徒同士で書いた文章を互いに読み合い、比較検討することで、構成や叙述の仕方について評価する具体的な視点を身に付けることを狙いとしている。さらに、学んだことを言語化し、再活用できるよう図っている。

国語学力診断について

近年の児童生徒の減少にもかかわらず、多数の御採用をいただき、ありがとうございます。学力診断実施後は、全県集計に御協力ください。本年度は中学校の学力診断を一旦休止とさせていただきます、小学校のみの実施となっております。

本年度も、すべての学年において、「活用」に関する問題を提示しています。これは、知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力を診断するものです。(傍線部は、「平成29年度 全国学力学習状況調査 解説資料」国立教育政策研究所教育課程研究センターより引用)

本診断についてのお問い合わせは、左記までお願いいたします。

旭ヶ丘小(〇七四五―七八―七二二三)

森本 隆史

役員名簿

平成二十九年年度 奈良県国語教育研究会

〈顧問〉	杉岡 博幸	磯城郡	上田 薫(平群中)	磯城郡	大山 久代(平野小)
〈会長〉	谷奥 彰(大字陀小)	桜井市	橋本 宗和(田原本小)	本岸 賢治(式下中)	南 洋子(織田小)
〈副会長〉	橋本 宗和(田原本小)	宇陀市	谷 正年(桜井南小)	松本 知幸(大三輪中)	岡田 康子(菟田野小)
	井上 昌典(新庄中)	宇陀市	中西 豊(桜井西中)	藤原 誠(御杖中)	山本 早織(今井小)
	原井 葉子(壱分小)	宇陀郡	谷奥 彰(大字陀小)	山本 早織(今井小)	岩本 雅子(大成中)
	山邊 尚治(曾爾中)	檀原市	泉尾 勝英(榛原中)	高田 滂香(たかむち小)	中江百合子(高取中)
	松原 義文(片桐小)	高市郡	加藤 詠一(御杖小)	竹内 玄樹(浮孔小)	松尾 由子(高田中)
	辰巳 喜美(斑鳩東小)	大和高田市	吉村 勝雅(今井小)	大和高田市	井阪潤一郎(鎌田小)
	辻井 賢次(大淀緑ヶ丘小)	高市郡	狩野 晃三(光陽中)	藤本 博一(たかむち小)	堀川奈津子(新庄北小)
	稲浦 寿子(俵口小)	大和高田市	藤本 博一(たかむち小)	稲葉 元則(菅原小)	桑原千寿加(真美ヶ丘第二小)
〈監査〉	林 正司(三和小)	香芝市	上村 博巨(高田中)	葛城市	柴田 俊和(河合第一中)
	堀之内成美(吉野中)	香芝市	林 正司(三和小)	北葛城郡	仲谷美都莉(長柄小)
〈指導〉	川西 聡弘(県学校教育課)	葛城市	井上 昌典(新庄中)	御所市	山本 芽衣(五條西中)
	新子 泰夫(県学校教育課)	北葛城郡	岡田 淳男(上牧第三小)	吉野郡(西)	増谷 和子(十津川第一小)
	徳富智香子(県立教育研究所)	御所市	辻 博暢(真美ヶ丘中)	吉野郡(東)	水野 清介(野迫川中)
	中野 博昭(県人権・地域教育課)	吉野郡(西)	吉川 洋也(御所小)	吉野郡(東)	山田 真路(吉野小)
	西本真由美(郡山北小)	五條市	吹田 伸也(御所中)	御所市	水田 真充(畝傍北小)
	豊田奈和子(片桐西小)	吉野郡(西)	小林 良樹(西吉野中)	五條市	杉村 幸恵(旭ヶ丘小)
	中島 宇規(六条小)	吉野郡(東)	和田 正雄(十津川第一小)	吉野郡(西)	石田 通大(済美小)
	田口志津代(上牧第二中)	吉野郡(東)	井谷 憲(野迫川中)	御所市	隅岡 歩(北中)
	早川賀英子(畝傍東小)	奈良市	堀之内成美(吉野中)	吉野郡(東)	八木 由記(桜井西小)
〈評議員〉	井阪潤一郎(鎌田小)	奈良市	大川原陽子(富雄第三小)	吉野郡(東)	河野 雄一(筒井小)
	石原 伸浩(富雄第三小)	山辺郡	谷口 結香(三笠中)	大和高田市	高塚 力蔵(生駒東小)
	矢追 篤人(平城東中)	天理市	藤原 明子(やまぞえ小)	大和郡山市	横山 豊(浮孔小)
	松本 哲(やまぞえ小)	大和郡山市	松村 祐樹(柳本小)	大和郡山市	森本 隆史(旭ヶ丘小)
	西岡 裕子(山の辺小)	生駒市	安田 千嘉(北中)	生駒市	北村 拓也(佐保小)
	神元 聡(福住中)	生駒市	太田美奈子(郡山西小)	生駒郡	井岡 直人(広陵西小)
	松原 義文(片桐小)	生駒郡	大島 淳(片桐中)	生駒郡	坂田 喜昭(吉野小)
	楠木 健一(片桐中)	生駒郡	飯田 安世(壱分小)	生駒郡	石原宏一郎(平城小)
	堀口 和行(生駒北中)	生駒郡	篠原 嶺(光明中)	生駒郡	
	堀口 喜美(斑鳩東小)	生駒郡	小和田悦子(平群北小)	生駒郡	
		生駒郡	前田 泰子(安堵中)	生駒郡	

事業計画

一 秋季研究大会

期日 平成二十九年十一月二十四日(金)
 会場 生駒市立生駒東小学校
 内容・公開学習①(二・三・六学年)
 公開学習②(一・四・五学年、特別支援学級)
 ・研究主題についての研究発表
 ・記念講演
 富山大学 人間発達科学部
 教授 米田 猛氏

二 冬季研究大会

期日 平成三十年二月十五日(木)
 会場 県立教育研究所
 内容・国語学力診断結果報告
 ・記念講演
 筑波大学附属小学校
 教諭 二瓶 弘行氏

三 国語教育推進のための研究・実践

(研究委員会)
 主題 付けたい力を育む「書くこと」
 の学習活動の創造

四 国語学力診断の作成・結果分析

(作問委員会)

五 会報の発行(第106号・107号)

六 その他

全小国研、全中国研主催の全国大会への参加など。

編集後記

学習指導要領が改訂されます。国語科教育における不易と流行を見極めて研究と実践を進めていきたいと思えます。御教示、情報等おありでしたら事務局までお知らせください。(石原)